

旭町を起点に反処分・ネ2次反合運動・保安の闘いへ！

動労千葉は、1月10日10時より、千鉄局において動労千葉申第2号に基づく不当処分撤回、局報号外弾劾、内房線を中心とする運転保安確立に向けた交渉を、各支部長出席のもとで行った。続いて14時30分より、動力車会館で第2回支部代表者会議を開催した。第2回支部代は、第一に現状の情勢を正しくとらえ、同時に今日国鉄労働運動の最大の焦点である「国鉄35万人体制」攻撃に対し、労働者が自らの飛躍をかけて反撃の闘いに立ち上がることに。第二に、そのことは、政府・国鉄当局の攻撃を迎え打つにたりうる強固な組織体制、闘争体制を確立することであり、総じて日常的な職場闘争・反合・運転保安の闘いの再構築が基軸であることなどを種々討議した。

当面する取組みを確認！

第2回支部代は、西森副委員長の座長により始められ、関川委員長の挨拶に続き、中野書記長から情勢報告及び当面する取組みの提起をうけた。その後質疑応答のかたちで進められ、次のとおり当面する取組みを満場一致で確認した。

1 激動する内外情勢

年末・年始の動きの中で示された、イラン・中東情勢、ソ連のアフガン介入等々、世界的経済危機の一挙的進行を象徴した金の高騰、石油危機、食料危機等は、米・ソを中心とする戦後世界の支配構造が崩壊局面に入ったことを示すものであり、戦争への衝動が常に世界情勢を突き動かす容易ならざる時代の幕あけを示している。

国内においては、体制的危機を侵略と反動の政策によってのり切ろうとする大平・自民党政府。反戦・反安保（自衛隊）、護憲の原則をなし崩し的に放棄する「革新」の変質。社公民路線、右翼的労線統一など、労働運動総体が産報化の道をひた走っている。

2 動労千葉をめぐる情勢

昨年末の不当処分攻撃は動労千葉つぶしの具体的な現れである。航空・宇宙産業育成の基幹である「空港政策」、その最大の課題である三里塚空港の命脈を握る動労千葉。さらには国鉄当局にとっての至上課題である「35万人体制」攻撃に対し、職場・生産点にウツ積する不満を代弁する闘う動労千葉の存在。

この動労千葉の闘いを圧殺し、組織を破壊すること生き延びようとする、権力、当局、そして「本部」反動分子一体となった攻撃は必至の情勢にある。

以上の情勢をみた時に、動労千葉の闘いは、多くの困難性と可能性を同時に秘めた闘いであり、密集せる反動と対決し抜き、勝利するために、全組合員ひとりひとりの飛躍と、その飛躍に支えられた強固な団結こそが求められている。

第3回定期大会における「35万人体制粉碎の闘

2回 支部代

国鉄35万人体制に反撃の闘争体制確立！

いと結合した三里塚・ジェット闘争を水路に、80年代を闘い抜ける自前の労働運動を構築する」という基本方針に踏まえ、さらに、80春闘のストなし策動を打ち破る闘いと結合し、当面、職場・生産点における反処分・第二波および第二次反合運動保安の闘いを中心に次のような取組みを行う。

3 当面する取組み

1. 1・12団結旗開きを80年代の闘いの起点として成功をかちとる。

2. 反処分・第二次反合運動・保安闘争

(1) 第一回支部代確認の意義と戦略・戦術にもとづき、35万人体制粉碎にむけた先制的・攻撃的闘いとして展開する。

(2) 戦術

☆ 1月16日始業時より18日24時まで全地上勤務者を対象とする減産闘争（B行動）

☆ 1月16日零時より当分の間、全乗務員による内房線を中心とする安全確認行動を実施する。

その他の線区においても減産A行動を実施する。

3. その他の取組み

(1) 2月上旬 中野書記長激励会

(2) 3月 春闘前段をとらえた動労千葉主催の全国集会

(3) 3月10日前後に第2回定期委員会の開催

(4) 3月30日 三里塚現地集会

(5) 動労千葉結成一周年記念行事

4. 3月までに次の会議・教育を行う。

- ・総務・財政担当者会議
- ・組織部長会議
- ・交渉部長会議
- ・教宣部長会議
- ・新組合員教育
- ・組織総務・財政検討委員会
- ・サークル協総会